

PTA あきた



(1) PTAあきた

2014.3.1

No.124

【発行】秋田県PTA連合会
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
E-mail: pta-akita@helen.ocn.ne.jp
<http://www.pta-akita.com>



～みんなで育てる 秋田の子ども～



松ヶ崎小
国道クリーンアップ



岩城小校章



松ヶ崎小
交通安全鼓笛パレード



岩城・松ヶ崎合同PTA
親子ラジオ体操講習会



道川小
サンドクラフト



亀田小
帯結び講習会

140年の
松ヶ崎小・道川小・亀田小から
岩城小へ



亀田小
旧藩祭



道川小
閉校記念式典



教育 懇談会

秋田県教育委員会と秋田県PTA連合会との教育懇談会を平成26年1月16日(木)に開催しました。県教委からは米田教育長、吉川義務教育課長、越後谷保健体育課長と各課員、PTAからは会長、副会長、他役員が出席し、「いじめ対策」「土曜授業」「アレルギー対策」「ネット対策」の四つのテーマについて意見交換が行われました。



最初に米田教育長からは本県の子供たちの学ぼうとする意欲、学力・体力などが優れた結果を示して多方面で高く評価されている。教育力の原点は家庭・地域・学校の三者の相互理解・連携強化にある。県事業として、重点的に「大人が支えるインターネットセイフティー」を推進している。とのあいさつをいただいて、テーマ毎に話し合われました。

いじめ対策について

- いじめの認知件数は、23年度から24年度の変化をみると小学校で102件から449件で4.40倍、中学校では245件から504件で2.06倍の増加。増加の要因としては、一過性のふざけやからかい等も含まれているためと考える。解消率は96.6%と高いが未解消で困っている子どももいることは事実。いじめの内容は「ひやかし」や「からかい」が一番多く、これまでと同じ傾向にあり、全国でも同様である。
- 県教委のいじめ問題の対策について
- 1 県教委で発行している「学校教育の指針」という冊子にいじめの未然防止を第一に記載している。具体的には自尊心や自己有用感を感じられる授業づくりをするということである。
- 2 不登校・いじめ問題等対策事業で、71中学校にスクールカウンセラーを配置したほか、心の相談室相談員、広域カウンセラーを配置し、教育相談体制を整備している。H24は、スクールカウンセラーに6,934回、相談電話に421回の相談があった。
- 3 教師用リーフレット「いじめの根絶をめざして」を配布した。
- 4 いじめ問題対策連絡協議会をH24から開催している。今年度も3回開催予定である。
- 5 H24に教師用「児童会・生徒会による取り組み事例集」を作成し、配布した。H25も作成し、配布する予定である。
- 6 「秋田県いじめ防止等のための基本方針」を作成した。人としての生きる原理・原則としていじめはしてはならないものであることが伝わるように「いじめは許されない行為」という表現を繰り返し用いている。
- いじめ防止対策推進法により、各学校で基本方針を策定することが義務付けられた。
- 学校だけでいじめを見つけ出したり解決することは限界もある。「社会全体で」を前提に様々な組織と連携を図り、未然防止・早期発見につなげていく必要がある。
- 既に各学校では、児童会や生徒会を中心として「いじめ0運動」を行ったり、「いじめ防止～か条」を作っているところもある。
- 県でいじめ防止の五か条を今年度中に作り、発表できるよう準備を進めている。(平成26年1月に発表済み)

アレルギー対策(食物アレルギー)について

- 食物アレルギーを持つ県内児童生徒の割合は、平成24年度において、小学校では3.5%、中学校では3.2%となっており、前年度と比べて微増している。
- 学校給食でのアレルギー対応は、文部科学省監修の「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」に基づき、学校及び調理場、食物アレルギーの児童生徒の実態等を総合的に判断し、現状で行うことのできる最良の対応を検討し、一人一人に応じたレベルで行うようになっている。
- 各学校では、いろんな情報を校内で一元化して学校医・教育委員会・調理現場と連携し、対策をとっている。
- 誤配、誤食などを防ぐためには、調理時、配送時、配食時といったところで複数の人による確認が大切である。場合によっては、教職員や本人だけでなくクラスの友達もこの子はこれを食べると命に危険があることを知る必要があり、みんなでその子の命を守っていかなければならない。
- 学校給食等において食中毒・異物混入・食物アレルギー等の事故を起こさないために、衛生管理訪問指導等を計画しながら、現場での改善指導や研究協議を行うことで衛生管理等の徹底を図っていくこととしている。
- アドレナリン自己注射薬(エピペン)については、平成23年に県医師会の指導下エピペン使用の指針を作り、全ての学校へ配布。研修会も県医師会主催で年3回行った。来年度は県教育委員会主催で開催予定。
- アレルギー傾向のお子さんにはアレルギー検査を受けるような喚起を促しては。
- 食事後の運動で発症する運動誘発性アレルギーもあることからそういった場合は救急車での対応を指導している。

土曜授業について

- 文科省で示している土曜日の教育活動の種類は、
1「土曜授業」=学校主体で全員を対象として授業時数にカウントして行うもの
2「土曜の課外授業」=学校が主体で希望者を対象とするもの
3「土曜学習」=学校以外が主体で希望者を対象とするもの
1についても設置者(市町村)の判断により実施できることを明確化するため法が改正された。「土曜授業」実施の意向を各市町村教委に聞いている段階である。昨年度「土曜授業」の実施は県内は0校。全国では公立小学校1,801校、公立中学校966校。
- これまでは、「土曜学習」の部分を「放課後子ども教室推進事業」で展開し、地域住民がボランティアで学校の教育活動を支援していく部分は「学校支援地域本部事業」で行っている。加えて来年度から「わくわく土曜教室推進授業」を展開し、地域ぐるみで子どもを育む体制を充実させていく
- 実施主体が各市町村教委なので、新しく取り組む所、今までの活動を継続していく所などある。
- 土曜休日の生活スタイルが定着している。
- 学習指導要領が変わって、時数で週1~2時間、内容も1割増えているが、週5日であるようになってきている。学校5日制から逸脱しないで、これまでの主旨をいかにしながらやっていく。
- いじめの問題を考えても土曜授業という形で道徳をしてもらえればいい。
- 土曜授業をするなら県単位で統一性を持ってほしい。

ネット対策について

- H19前後に問題となっていたのは出会い系サイトなどの有害サイトであり、「携帯電話フィルタリングサービス導入啓発事業(生涯学習課)」などの取組を通じて、フィルタリングの普及活動を行った結果、県内のフィルタリング利用率は大幅に上昇した。
- H24から、スマートフォン等の携帯型ネット機器が急激に普及し、従来型のフィルタリングが適用しづらいことや、SNSやメッセージアプリなどの発信・参加型のサービスが非常に充実していることなどから、子どもたちのインターネット利用は大きく様変わりしているのが現在の状況である。
- 「大人が支える! インターネットセーフティの推進」の目的は、ネットに少し詳しい大人を増やしていくことにより、沢山の大人の目で子どもたちの健全なインターネット利用を見守っていくことである。情報化社会の中で、インターネット機器を持たせない、使わせないという考え方をするのでなく、子どもにより安全に使わせるために、年齢や知識・能力に応じて段階的に利用させていくことが重要であり、保護者の力が必要である。
- 県では、こうした考えを基に、今年度からインターネットセーフティの取組を進めてきた。具体的な取組の一つに地域サポーター養成講座があり、今年度は鹿角、秋田、横手の県内3地区6会場で行った。これを3ヶ年で全県的に展開していく。
- いろいろな情報が全ての保護者になかなか伝わらないという課題があるので、保護者に直接届くということの一つの目標として、各学校も含めて、メールの一斉配信システムを活用して、メールマガジンを届ける取組を計画中である。
- 昨年末に各学校や市町村に協力をお願いしており、この配信が整いつつある。年度内には学校にコンテンツの配信を開始していきたい。
- 県庁出前講座は、今年度、12月末現在で58回の要請があり、昨年度と比較すると回数においては倍以上である。
- 話を聞いて、使わせないということからどう使わせていくのかというところが一番大きいかなと。大人が学習しないといけない。

*1 県教委の「秋田わか杉っこ いじめゼロに向けた五か条」は秋田県ホームページに掲載しています。

*2 「いじめチェックリスト」は県PTA連合会ホームページに掲載しています。

メモリアルページ

今年度をもって PTA 活動の
区切り（閉校）となる学校があります。
PTA会長のコメントとともに校舎・校章を記録として残したいと思います。
①創立年月日 ②児童・生徒数



大館市立雪沢小学校



- ① 昭和27年4月1日
② 21名

四季折々の豊かな自然の中、杉の香漂う美しい校舎で沢山の子どもたちを育んだ雪沢小学校も、62年の輝かしい歴史に幕を下ろすことになりました。子どもたちの様々な体験を支えて

くださった地域の皆様はじめたくさんの方々に心から感謝いたします。子どもたちは、雪沢っ子としての誇りをもち、新しい未来へ羽ばたきます。



由利本荘市立松ヶ崎小学校



- ① 明治7年3月10日
② 40名

創立140周年の年に閉校を迎えることになりました。松ヶ崎小学校は海辺にあり、子どもたちは「潮騒健児」「潮騒っ子」と親しまれてきました。また、校舎の食堂から見える海の景色はと

ても素晴らしく、まさに海辺の学校にふさわしい校舎であったと思います。これまで学校を支えていただいた多くの皆様に、心より感謝申し上げます。



男鹿市立鵜木小学校



- ① 明治8年8月28日
② 47名

鵜木小学校は、138年の歴史を閉じることとなりました。春からは統合し、「美里小学校」としてスタートします。これまで鵜木小学校を支えていただいた多くの皆様に、心から感謝いたします。そし

て統合しても、保護者や地区の方々の願いを大切に、ますます発展してくれることを願っています。



由利本荘市立道川小学校



- ① 明治7年11月16日
② 152名

白砂青松の地に立つ本校も139年の歴史に幕を下ろします。多くの卒業生・地域の方に愛され「より高く やさしく たくましく」をモットーとする道川っ子の魂は新しい学校にもきっと引き

継がれるでしょう。ありがとう道川小学校！思い出はいつまでも…。



男鹿市立五里合小学校



- ① 明治8年10月1日
② 43名
寒風山の麓、滝の頭の清流と豊かな自然に生まれ、明治8年五里合谷地学校として産声を上げ、138年の歴史ある五里合小学校もその幕を下ろすことになりました。

学校の先生、卒業生、地域の皆様など、たくさんの方々の深い愛情に育てていただきました。これまで支えていただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます。

「夢をもち、心豊かに伸びゆく子ども」～進んで学び、よく考える子ども～をモットーに、これからも健やかに成長することを心から願っています。ありがとう！『五里合小学校』



由利本荘市立亀田小学校



- ① 明治6年11月1日
② 68名

本校は、140年の長い歴史に幕を下ろします。閉校に当たり、多くの地域の方から志を賜り、深く感謝申し上げます。

亀田地域は、藩政時代から学問を進めてきた町です。旧藩祭は、藩政時代の流れを汲んだ行事で地域と学校が一体となり亀田町内を練り歩きます。地域の方や保護者からは、帯結びの仕方、手踊りや太鼓・笛の指導など子ども達に多くのご支援をいただきました。旧藩祭は、亀田の町内を元気付け、子ども達に笑顔を与えます。地域と学校の関わりを大事にする上でも、今後も長く引き継いで欲しいと願っております。

亀田小学校の児童のみなさん、亀っ子精神を新設校の岩城小学校に引き継いでくれることを期待しております。亀田小学校に関ってきた地域住民のみなさま、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

かつの ●インターネットセーフティ事業への取り組み

今年度、かつのPTA連合会では、県教育庁の事業である「インターネットセーフティ事業」に参加し、花輪地区と小坂地区に分かれて合計8回にわたり講座を行いました。ネット環境(特にスマホやゲーム機)を使用する年代が、徐々に低年齢化し、1日の使用時間が長くなるといった傾向がここ数年顕著になってきているなかで、わたしたち親はその状況を把握し、どのように対処すべきなのか、ということをとくさん学びました。

講座には、PTAだけでなく、地域のさまざまな方々にも参加頂き、ネットに関して、大人が少し詳しくなって、地域の子もたちを見守っていこうとする、裾野の広い観点に立って行われたのも今回の講座の特徴でした。



講座を受けたなかで、まず分かったことは、ネット環境は常に進化していて、スマホ自体の機能だけではなく、スマホで使うさまざまなコミュニケーションツールやサービスがどんどん新しい形態に変わっているということ。そして、それを使う子どもたちと親の知識の隔たりがどんどん広がっているということです。

まずは親も使ってみよう。そう痛切に感じた今回の取り組みでした。

能代山本

●PTAの力を結集して

今年度は県PTA研究大会が当能代山本地区で開催の為、毎年実施していた研修会を休止し、地区を上げて県大会開催に全力を注ぎました。大会前日の情報交換会では、地元小・中学校の特色あるPTA活動を紹介し情報を共有できました。当日は、多数の参加者に支えていただき研究大会を成功に収めることができたことと感謝しております。

さて、能代市山本郡PTA連合会では、毎年地域のPTA活動の情報誌として「連合会だより」を発行しています。今年も「つなげよう、子どもたちに明るい未来を!」の基本理念に沿った特色ある活動が多数報告されました。活動の様子から、子どもは地域の宝物であり、子どもたちとの活動を通して子どもたちから元気を貰っているPTA会員や地域の方々様のご様子が見えました。

最後に、来年度からは研修会も再開します。今年度の貴重な経験を生かし、PTAの力を結集し盛り上げていく能代山本PTA連合会です。



大館北秋

●「子どもの心をたくましく育てる」



本年度の大館・北秋田PTA連合会研修会は「心豊かにたくましく生きる子どもを育てるPTA活動の創造と実践」をテーマに、約200名の会員の参加を得て、9月28日(土)、合川体育館を会場に講演会を開催しました。

講師に、母子生活支援施設秋田わかばハイム臨床心理士成田ひとみ氏をお招きし、「子どもの心をたくましく育てることばけ」と題し、講演をしていただきました。

「思春期に揺れ動くから、たくましく大人になれるという一言を聞いて、楽になりました。子育てに指導のヒントになりました。」

「思春期の日常そのものに関わるトラブルが子どもの心を育てる大切な要素であることをあらためて研修しました。」「心の揺れ動きが大事、心も身体と同じように、動くことによって鍛えられるというお話がとても新鮮に感じられました。今後の子育てにいかそうと思います」等の感想が多数寄せられました。多くの会員が子育てについて前向きに考えるよいひとときでできました。

潟上南秋

●講演と3B体操で健康について考える

本年度の潟南PTA連合会研修会は、事務局が五城目小にあることから、五城目町PTA連合会と共催で、11月23日に行われました。会場の五城目町民センター・総合体育館には120名ほどの会員が集まりました。第1部は渡部けい子氏による講演で、「健康とは」という演題でお話いただきました。そして第2部は体育館で3B体操の実技講習を行いました。参加くださった方からのご意見・ご感想を紹介します。

○講演の中にもありましたが、何事も続けることが大切だと感じました。自分自身が健康でなければ、子どもたちと元気に過ごせないで、改めて「健康」について考えさせられました。

○健康について改めて考えることのできる機会になりました。できることを長く続け、内から湧き出る健康を手に入れたしたいと思います。

○3B体操、初めて体験しました。とても気持ちよかったです。指導者の皆様の表情や姿が滲刺として、健康的でした。講演内容とつながる姿でした。



男鹿市 ●PTA 研修会を通して

男鹿市PTA連合会では、毎年PTA研修会を開催しています。今年度は第7回となり8月25日に男鹿市文化会館で100名ほどの参加者で開催されました。

今年度の研修テーマは「今をよき生き未来へ」～「いのちの教育あったかエリア事業」を通じて～でした。講師を迎えて講演会を行いその後はグループ別フリートーキングが参加者全員で行われました。

男鹿市在住で大龍寺住職の三浦賢翁さんから「何が命を救うのか」～東日本大震災ボランティア活動から～というテーマでお話を伺いました。被災地にボランティアとして赴き、その活動を通しての様々な経験談に参加者一同、熱心に耳を傾けていました。命の大切さ、子どもたちに対する思い、未来に向けて私たちは何を子どもたちに伝えていかなければならないかを考えさせられる講演会でした。

その後のフリートーキングでは、参加者それぞれの子育ての考え方も含めながら活発な話し合いが行われました。アンケートも実施し有意義な研修会となりました。PTA会員の様々な意見を参考にしながら次回の研修会へと繋げていけたらと思います。



秋田市

●「この子達に託したい秋田の未来…」 山本久博氏講演会

秋田市PTA連合会文化研修部では、11月27日(水)に「ホテルメトロポリタン秋田」において、秋田県美容生活衛生同業組合理事長で、「mode studio Q」の代表取締役、(株)風の王国(風力発電事業の秋田県パイオニア的存在です。)推進メンバーの山本久博先生を講師にお招きし、「この子達に託したい秋田の未来…」との演題でご講演いただきました。秋田市教育委員会の共催をいただき76名の参加者がありました。

講演では、将来秋田を担う小中学生の学力は全国トップクラスであることは大きな財産であり、お母様たちへの賞賛・感謝の思い熱くご講演いただきました。また、環境問題や再生エネルギーの活用の話、ご自身の生い立ちから現在に至る道筋、美容室を営む上での大事なことなど多岐にわたり、あっという間の一時間半でした。

当日の講演はインターネット動画サイトのコーストリームにて放映されました。子育て、地域活性、そして秋田の将来と気付きの多い充実した講演となりました。



美郷町

●交流研修会「親力アップ講演会」

本町PTA連合会では、会員を対象とした交流研修会を毎年行っています。今年度は美郷町教育委員会生涯学習課の「親力アップ講演会」を活用させていただきました。講師は教育評論家の親野智可等さんをお願いし「今、いちばん必要な親力とは？」というテーマで講演していただきました。

親野さんは、公立小学校で23年間教職に就かれた経験から、親が子どもに与える影響力がとても大きいことを痛感し、子どもの力を伸ばすための具体的な提案をしてくださいました。

子どもの自己肯定感を伸ばしていくためには、子どもの足りない部分ばかりに目をやるのではなく、その子の好きなことや熱中できることを応援して、過不足のないサポートをしていくことが効果的であるということや、本当の自立とは、自分のやりたいことを自分で見つけて、自分でやっていこうという気持ちを育てていくことなど、子どものやる気を引き出すたくさんのヒントを与えていただきました。お話ししていただいたことは、とても具体的にすぐできるアイデアばかりで、親力を高めたいへん有意義な会となりました。



仙北市

●講演会・情報交換会

平成25年11月15日(金)、仙北市PTA連合会「講演会・情報交換会」を開催いたしました。

講師には、親業訓練インストラクターである佐藤成男氏にお出でいただき、「子どもと共に成長する親のあり方～子どもを伸ばす親、つづす親」をテーマにご講演いただきました。子どもを伸ばす親の接し方や子どもの自立はばみ、親と子の関係をこわす接し方等についてお話しいたき、自らの子育てについて改めて考え直す貴重な時間となりました。

その後、講師の佐藤成男氏を囲んで市内12校のPTA役員が一堂に会し、それぞれの子育て談義や各校の情報交換等により、会員相互の懇親を深めることができました。

今後も研修会や情報交換会等を実施し、各校の連携強化と子どもたちの健全育成に向けたPTA活動の推進に努めて参りたいと思います。



由利本荘市

●市P連『研究集会』開催

11月16日(土)、今年度開校した鳥海小学校を会場に約200名の参加を得て、隔年で開催されている当連合会主催『研究集会』を開催しました。

市及び地区の来賓の方々のご臨席のもと、『子どもを叱れない大人たちへ』と題して、落語家である桂 才賀氏よりご講演をいただきました。

桂氏は、海上自衛隊入隊後、落語家としてご活躍される一方、法務省少年院篤志面接委員としても任命され、全国の少年院を訪問しながら犯罪を犯した青少年と本音のつきあいを深められている方でもあります。

(“たまにはよう 叱ってみろよ 大人たち”)少年院に収容されている青少年たちの「声」(心の叫び)をも紹介しながらのご講演は、親として、大人としてどうあるべきか、目に涙し、胸に熱いものを感じながらの貴重な一時でした。

講演会後は、開校間もない真新しい校舎内見学、児童による地域の民俗芸能アトラクションや統合・開校に関わる学校及びPTAの活動紹介など、鳥海地区連合PTA実行委員は、有意義な研究集会を創り上げてくれました。



大仙市

●「～共に創る 考え開く～『語ろう！かだろ！』」

本市PTA連合会では、家庭や学校(園)、地域における子どもたちの健全な育成を目的として、各種研修会を実施しております。

今年度1回目の研修会では、秋田ノーザンハピネッツ「テクニカル・ディレクター」の長谷川誠氏をお迎えして「バスケットを通して見た『世界』」と題して、ご自身の体験をもとに「自己コントロール」することや強い意志を持つことの重要性についてお話しいただきました。

2回目の研修会では、「連携・協働」をキーワードとし地域社会に開かれた学校づくりを目指し『コラボ・スクール』を展開している太田南小学校への研修視察を行いました。子どもたちが目を輝かせて生き生きと学習に取り組む授業の参観や地域の方々との連携の仕方などについての協議会等、実り多い研修会となりました。

この後3回目の研修会として、県の学習状況調査結果に基づく子どもたちの学力等の状況について市としての分析結果の報告や情報モラル教育に関するご講演をいただく研修会を予定しています。



横手市

●研究集会「大人が支える！インターネットセーフティの推進」

11月30日、平鹿生涯学習センターを会場に、「平成25年度横手市PTA連合会研究集会、ははおや・ちちおや研修会2013」が行われました。

当日は、たくさんのご来賓と市P連傘下の市内小・中学校のPTA会員約150人の参加者を得て、講演会が行われました。

講師には、秋田県教育庁生涯学習課の森川勝栄氏をお招きし、『大人が支える！インターネットセーフティの推進』と題して、家庭を中心にしながら、社会全体で子どもたちをインターネットによる有害情報やトラブルなどから守り、インターネットを健全に利用できるよう、秋田県の現状やトラブルなどの事例も交えながら、安全で安心な利用環境について、会場の会員の皆さんと考える機会となりました。

これまでは、有害図書や携帯電話を通じての有害な情報からできるだけ避けるというような「守る」視点のみ強調されてきましたが、ここ数年の大きな環境変化により、インターネットを利用する必要がある時代になったという背景から、健全に利用できる環境を私たち大人が、学校・地域と一体となって作り上げていく必要があるようです。



にかほ市

●トーク&ライブで盛り上がった講演会

本連合会では、毎年会員を対象として講演会を開催しています。

今年度は、元『オフコース』ドラマーの大間ジロー氏を講師としてお招きし、『大間ジロー トーク&ライブ～新しい時代と子どもたちのために～』の演題で、象潟中学校を会場として行われました。

大間氏は、将来教師になろうと勉強してましたが、その当時、本物の演奏を聴くために母親にお願いして東京まで行かせてもらい、そこで聴衆を魅了する生演奏の迫力とすばらしさに大きな影響を受け、音楽の世界で生きていこうと決心したそうです。「あの時、母親が応援してくれなかったら、今日の自分はいない。自分の子どもを心配せず、信頼してほしい。」「ピッと感じたらパッと行動することの大切さ」と熱く語られました。

会員からは、「親として子どもを心配することが多いが、これからは子どもを信頼していきたい。」「子どもの可能性を信じて応援していきたい。」等の感想が寄せられました。

最後に、大間氏のドラム生演奏が披露され、巧みなスティックさばきに圧倒されました。オフコースの解散公演のDVDも視聴することができ、「トーク&ライブ」を満喫したとても有意義な会となりました。



湯沢雄勝

●研究集会「子育てについて考える」

8月31日(土)、東成瀬村地域交流センター「ゆるるん」において、郡P連研究集会が開催された。今年度は本郡市の研究主題のもと、「子育て」に関する講演会を実施した。

講師は、静岡英和学院大学教授佐々木光郎先生。演題は、「育てよう 健やかな子どもを！―非行の子どもと向き合って30余年―」である。

当日は、講演会に200名程の参加者があり、盛会裡に終えることができた。講演では、佐々木先生がこれまでの体験をもとに、今、親は何をしたらよいのかなどについて具体的な事例をあげながら分かりやすくお話して下さった。参会者にとってはこれからの子育てについてじっくり考える機会となった。示唆に富むお話を聞くことができた。

講演会に参加した方々からは、「ユーモアあふれるお話で楽しい時間となった。」「食育や家庭の大切さを再認識することができた。」「理想的家庭などは存在しないというお話を聞き、すごく楽になった。」などの感想が寄せられた。



平成 26 年度 児童・生徒・PTA総合補償保険のご案内

秋田県 PTA 安全互助会は、児童・生徒の健やかな成長と
PTA 会員が安心してできる PTA 活動を願って、補償保険事業を行っています。

■ 児童・生徒の補償

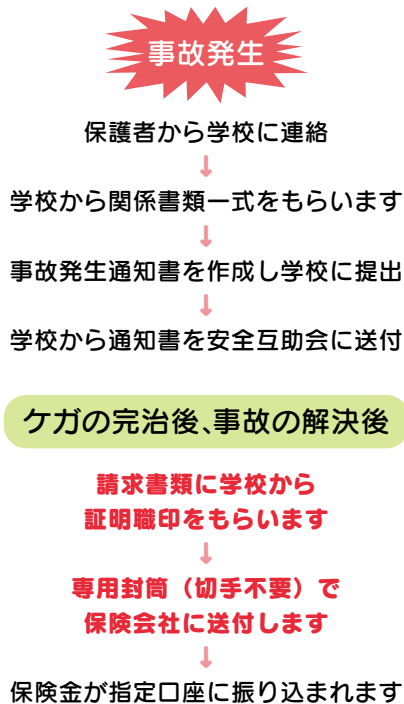
- ・家庭内でのケガ、スポ少活動中のケガ、
登下校中のケガなど学校管理下外で被ったケガに対する補償
- ・ボールなどで遊んでいて窓や車を傷つけた、メガネがこわれた等の補償



■ PTA会員の補償

- ・PTAが主催(共済)した行事に参加し活動中に被ったケガに対する補償
- ・PTAが主催した行事の活動中に人の身体や物品に損害を与え、法的な責任を負った場合の補償

保険請求手続き



お支払いする保険金	①学校契約団体傷害保険	②PTA団体傷害保険
死亡保険金	80万円	110万円
後遺障害保険金	障害の程度により 32,000円～800,000円	障害の程度により 44,000円～1,100,000円
入院保険金	1,100円×入院日数 (180日が限度)	1,500円×入院日数 (180日が限度)
手術保険金	入院中 11,000円 入院外 5,500円	入院中 15,000円 入院外 7,500円
通院保険金	700円×入院日数 (90日が限度)	1,000円×入院日数 (90日が限度)

③PTA主催行事の賠償事故		
PTA諸事業に伴う賠償事故		借用物の損壊等による賠償事故
対人賠償 (他人にケガをさせた場合)	1名につき3,000万円を 限度、1事故につき3億円 を限度とします。	保険期間中を通じ全体で 500万円を限度とします。
対物賠償 (他人の物を壊した場合)	1回の事故につき200万 円を限度とします。	

④児童・生徒の賠償事故
被害者に対して支払う損害賠償金、訴訟になった場合の費用等について80万円を 限度にお支払いいたします。

- このご案内はごく簡単な説明です。児童・生徒・PTA総合補償保険の詳細につき
まては、安全互助会にご照会ください。

忘れていませんか？

ケガが治っていたら、保険金請求の手続きをお願いいたします。

加 入 の お 願 い

平成26年度の「加入のご案内」について3月中旬に各単位PTAあてにお送りいた
します。安全互助会の趣旨をご理解いただき、特に未加入校におかれましては、役
員会等でご検討いただきますよう、よろしくお願いいたします。

お問い合わせ

秋田県PTA安全互助会 TEL 018-824-7938 / FAX 018-824-7935

おめでとう 須藤 凜さん 厚生労働大臣賞 受賞

三行詩コンクール厚生労働大臣賞 受賞作品

おふろだと
いっぱいはなせる
はだかんぼなきもち

「楽しい子育て全国キャンペーン」親子で話そう！ 家族のきずな・我が家のルール三行詩コンクール(主催:文部科学省、(公社)日本PTA全国協議会)において、由利本荘市立尾崎小学校 1年生 須藤 凜さんが平成25年度の厚生労働大臣賞を受賞しました。表彰式は、3月27日文部科学省において行われます。

なお、このコンクールには全国から10万6千件を超える応募があり、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、日本PTA全国協議会会長賞、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会会長賞が選出されました。

上映会のご案内

「僕らはココで生きていく」

- 上映会場/秋田市文化会館
- 日時/平成26年3月16日(日)
開場 13時00分
開演 13時30分
- 入場料/無料
- 主催/秋田県PTA連合会

3.11の被災地三陸沿岸で震災から1か月後に復興を願い、支える人々が立ち上げた被災地復興支援プロジェクトを記録したドキュメンタリー映画です。



皆さんも震災を忘れず、支援にご協力を！！

◆ 平成26年度行事予定 ◆

- 5月31日(土)
新・旧郡市PTA連合会会長会議
- 6月7日(土)
秋田県PTA連合会・安全互助会定期総会
- 7月上旬
秋田県小・中学校PTA会長会議
- 8月22日(金)～23日(土)
日本PTA全国研究大会長崎大会
- 9月6日(土)～7日(日)
東北ブロック研究大会盛岡大会
- 11月8日(日)～9日(日)
秋田県PTA研究大会にかほ記念大会
秋田県PTAチャリティーフェスタ

携帯電話からも会員登録OK! ますます便利に!

えきねっと

会員募集中

www.eki-net.com

くわしくは「えきねっと」ホームページをご覧ください

会員登録
無料

「えきねっと」なら
パソコンや携帯電話で
きっぷの申し込みが
できてとっても便利



「えきねっと」なら
乗車日の1か月前+1週間前に
指定席の事前購入登録ができます。

※但し、携帯電話からの申し込みは乗車日の1か月前(午前0時)からとなります。
※指定席は有料で購入できます。



日新火災



お客さまひとりひとりと、
顔の見えるおつきあい。

日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔の見えるおつきあい」で、お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。

お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して

秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社

日新火災海上保険株式会社

秋田サービス支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255